

シマムセンオーディオ試聴会 (2018.5.27)

—Technics 新製品「SL-1000R」試聴会—

1. はじめに

シマムセンで開催された Technics の新しいアナログプレイヤー「SL-1000R」の試聴会に行ってきました。SL-1000R については4月に[テクニクス試聴室](#)で聴いていますが、こういったデモをするのかに興味がありました。

2. 使用機器

使用機器ならびに当日のセッティングは以下のとおりです。

Technics 5月27日(日) 新型レコードプレーヤー試聴会 13:00~15:00

ダイレクトドライブターンテーブルシステム **SL-1000R** ¥1,600,000

その他の使用機材

- Technics **SB-R1** ¥2,696,000
- Technics **SU-R1** ¥838,000
- Technics **SE-R1** ¥1,580,000
- Phasemation **EA-1000** ¥900,000
- Phasemation **PP-2000** ¥440,000
- ortofon **SPU Royal G MkII** ¥232,000

レコードプレーヤー	Technics SL-1000R
スピーカー	Technics SB-R1
プリアンプ	Technics SU-R1
パワーアンプ	Technics SE-R1
フォノイコライザー	Phasemation EA-1000
カートリッジ	Phasemation PP-2000
カートリッジ	Ortofon SPU Royal G MkII



当日のセッティング

### 3. SL-1000R の試聴の経過

試聴を挟みながらプロジェクターを使って詳細な説明とパーツの提示がありました。主要な説明内容は下記サイトに記載があります。

<http://jp.technics.com/products/1000r/>

説明の中で興味があったのは、別の問題でスイッチング電源からのノイズの漏れの音質への影響を痛感しているだけに、コントロー部を分離し、かつスイッチング電源からのノイズを検知し、逆相の信号でキャンセルするという処置がとられていることでした。その他、テクニクス製品のPR活動や、FM番組への登場、BPOとの協業などの紹介がありました。

最初はテクニクスがデモ用に制作した女性ボーカルから始まり、続いてオルガン曲がかかりました。生のオルガンは地元のホールで年に数回聴きますが、エッジ感が強くて響きが痩せた印象です。

続いてTake 5のオリジナル盤と最新の盤がかかりましたが、両者の音の違いは明確に出ていました。引き続いて、女性ボーカル、クラシックの火の鳥、ジャズコンボがかかりましたが、火の鳥では力感や切れ味の良さは分かりましたが、もう少し、湿度感や温もり感も欲しい感じです。

この後、ロック、中古レコードのロック、ビートルズと続きましたが、押出の良さとか、音の切れ味とかは良い方向に作用していたように感じます。

テクニクスのプレイヤーとアナログ復活のFM番組の録音の紹介の後、映画音楽、ジャズボーカル、ゲーリー・カーのコントラバスと続いて締めくくりとなりました。ゲーリー・カーのコントラバスはもう少し弦の艶がほしいところでしたし、録音場所はいつも通っている地元のホールとのことですので、このホールの響きが出ていなかったように感じます。

クラシックの選曲が少なく、倍音の微妙な揺らぎを感じさせるような曲の再生がなかったので、このプレイヤーの真価を把握することができませんでした。また、高

価なカートリッジやフォノイコライザーを使用している割にはアナログらしい魅力が伝わってこなかったのは、後段のデジタル化、デジタル伝送、デジタルアンプ駆動の問題ではないかと考えられます。

#### 4. まとめ

かけられた曲のジャンルとフォノイコ入力後のステージからデジタル化され、デジタルアンプで駆動されていたことから、SL-1000Rの静寂感と力強さは認識できたものの、倍音領域の音楽的なニュアンスまでは把握できませんでした。フォノイコの入力の後段もアナログ系で伝送、駆動されるシステムで聴いてみないとSL-1000Rの真価を享受することは難しいと思われま

以上